

令和元年度 第1回

地域包括支援に関する会議

## 資料 5

### 3 報告

- (1) 介護予防・生活支援サービス「短期集中予防型」の  
実施について

## 平成 29 年度 短期集中予防型(サービスC)検証実施後の モニタリング(6か月後・1年後)結果について

### 1 モニタリング結果

(1) 6ヶ月後、1年後における介護保険サービスの利用状況

教室終了者	6か月後	1年後		介護保険サービスの利用
34名	22名	20名	▶	なし
		2名		▶
	10名	10名		
2名 (途中終了者)				

- 6ヶ月後では約7割、1年後では約6割の方が、介護保険サービスを利用せずに、生活を継続できている。

(2) 主なモニタリング内容

介護保険サービスを利用せずに生活を継続できた方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自宅での体操や散歩などを継続。</li> <li>○買い物や自宅での炊事、洗濯、掃除などを継続。</li> <li>○家庭菜園など趣味活動を実施。</li> </ul>
介護保険サービスを利用するに至った方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教室終了時には散歩距離の向上や親族との食事をするなど、活動性の向上がみられていたが、本人特有の社会的なつながりの希薄さやパーキンソン病による機能低下防止のため、通所型サービス（予防給付型）を利用。</li> <li>○教室終了時には身体機能の改善が図れていたが、痙性脊髄麻痺があり、機能訓練目的で通所リハを利用。</li> <li>○教室終了時には階段の上り下りが楽になるなど、生活機能の向上がみられていたが、認知機能の低下により通所リハを利用。</li> <li>○教室終了時には室内の移動が安定するなど、生活機能の向上がみられ、6ヶ月後モニタリングでは夫婦で筋トレ教室に参加するなどしていたが、1年後のモニタリングでは運動目的で通所型サービス（生活支援型）を利用。</li> </ul>

### (3) まとめ

- 教室終了時において、近所の外出や地域の教室への参加など、活動性・社会参加の向上がみられた方は、1年後のモニタリングでも介護保険サービスを利用せずに日常生活を送ることができている傾向がみられた。
- 一方で、生活機能の維持に留まっている方は、パーキンソン病や脊髄小脳変性症、脳血管障害などの疾病があり、それらの悪化により介護保険サービスの利用に至っている傾向がみられた。

※通所リハの利用など、個別の関わりが必要となる例がみられた。

## 2 今後の方向性

### (1) 利用者の選定について

利用者の選定にあたっては、疾病状況についても十分考慮し、プログラム提供による適切な効果が得られるのかについてマネジメントを丁寧に行う必要がある。

### (2) 教室終了後のフォローアップについて

教室終了後については、活動が定着するまでの間、継続した支援を行い、一人ひとりの状態に応じた丁寧なフォローアップを行う必要がある。

### (3) 事業実施のあり方について

教室については、実施場所や時期が限られており、柔軟に対応できる仕組みを検討する必要がある。(例：訪問を中心とした介入を行うなど)

## 平成29年度 短期集中予防型（サービスC）検証実施の結果報告

### 1 事業概要

平成28年10月より開始している介護予防・生活支援サービス事業において、「訪問と通所を組み合わせた短期集中予防型（サービスC）」について、平成28年度の直営でのモデル事業実施結果を踏まえ、平成29年度は事業所への委託による検証実施を行った。

#### (1) 対象者

- ・要支援認定者（要支援1・2）
- ・事業対象者（基本チェックリストに該当し、介護予防マネジメントの依頼をした者）

#### (2) 実施時期

平成29年10月～平成30年3月

#### (3) 実施方法

委託により実施（医療法人、社会福祉法人等7ヵ所）

#### (4) 実施内容

短期集中によるサービス提供を行った後、自主的な介護予防活動の継続に向けたOB・OG会の場を提供した。

##### ① 短期集中予防型

訪問及び通所を組み合わせたサービスを提供した。

##### 【訪問サービス】

リハビリテーション専門職が訪問（地域包括支援センターが同行）を行い、生活機能の評価及び日常生活における困りごと等を把握した後、ケアプランへの反映を行った。

訪問回数～通所開始前2回、終了時2回（計4回）

##### 【通所サービス】

週1回（90分～120分）、約3ヶ月間（12回）の通所プログラムを提供した。

※主なプログラム内容

- ・生活行為の改善に向けた運動・栄養・口腔ケアについての講話・実技
- ・介護予防活動の継続に向けた動機付け等を組み込んだプログラム 等

##### ② OB・OG会

訪問及び通所サービスの終了後、利用者の地域での自主的な介護予防活動の継続性を高めることを目的に、自主的なグループ活動であるOB・OG会（週1回、約2ヶ月間）を行った。

※主なサービス内容

- ・グループ活動の支援
- ・運動のフォローアップ及び互助の力を高めるための側面的支援 等

※地域包括支援センターによるフォローアップ

- ・地域活動の紹介やつなぎ
- ・日常生活上の相談対応 等

## 2 実施結果

### (1) 利用者の状況

- ・利用者数 ～ 34名（男性：11名、女性：23名）
- ・平均年齢 ～ 79.4歳（男性：78.1歳、女性：80.0歳）
- ・介護度

要支援1	要支援2	その他（要支援認定非該当等）
23名	6名	5名

### (2) 実施状況

7カ所（各区1カ所）の事業所において実施した。

区	事業者名	開始	終了	利用者数
門司区	学校法人 国際学園	10月3日	3月27日	3
小倉北区	医療法人 共和会	10月6日	2月23日	6
小倉南区	社会福祉法人 容風会	10月7日	2月24日	7
若松区	医療法人 優和会こが医院	10月7日	3月24日	4
八幡東区	医療法人 ふらて会	10月16日	3月19日	4
八幡西区	特定非営利活動法人 北九州スポーツクラブ連絡会	10月5日	3月29日	5
戸畑区	社会医療法人 共愛会	10月20日	2月23日	5
合計				34

### (3) 結果

- 訪問・通所サービスの利用者のほとんどが、約3ヶ月間のプログラムを終了し、OB・OG会の利用まで至っている。
- 訪問・通所サービスの評価結果については、約半数が生活機能の向上または活動性・社会参加の向上が図れている（何らかの改善が図れた数を含めると、全体の約3/4に機能向上が見られている）。  
また、約半数は、明らかな生活機能の変化までは見られなかったが、疲労感の軽減や身体機能の改善など、何らかの変化が見られている。

※OB・OG会終了後、6ヶ月を目途にモニタリングを行い、その後の経過の把握及びフォローアップを実施する予定。

### 《サービス利用状況》

区	訪問・通所サービス利用者数		OB・OG会利用者数	
		途中終了者数		途中終了者数
門司区	3	—	3	—
小倉北区	6	—	6	—
小倉南区	7	—	7	—
若松区	4	—	4	1
八幡東区	4	1	3	1
八幡西区	5	1	4	—
戸畑区	5	—	4	—
合 計	34	2	31	2

※訪問・通所サービスを途中終了した者の主な理由

- ・腰痛の悪化 等

※OB・OG会を途中終了した者の主な理由

- ・転倒による骨折の治療
- ・希望しない 等

### 《訪問・通所サービスにおける評価結果》

活動性・社会参加の向上が図れた利用者数	4
生活機能の向上が図れた利用者数	12
明らかな生活変化までは見られないが、疲労軽減や体力測定結果の改善など、何らかの改善が図れた利用者数	10
ほぼ変化が見られなく、生活機能が維持されている利用者数	6
生活機能の低下が見られた利用者数	0
評価不能の利用者数	2
合 計	34

※評価不能の利用者の主な理由

- ・腰痛の悪化 等

## 3 今後の課題

### (1) 必要な方がサービスにつながる仕組み（入口部分）

事業周知が十分でなかったため、ケアマネジメントの際に対象者に対してのアプローチが不十分なところがあった。

### (2) サービス終了後の受け皿づくり（出口部分）

地域活動の把握が十分でなかったため、サービスを終了した利用者に対して、活動への紹介やつながりが不十分なところがあった。